

広報 すぎなみ

Suginami



支えあい共につくる
安全で活力あるみどりの住宅都市 杉並

{ 5 / 15 }
平成29年(2017年)
No.2203

杉並から、夢に
向かって走る。

パラスポーツ（障害者スポーツ）の
トップアスリートが熱戦を繰り広げた
リオ2016パラリンピック。陸上競技
では、杉並区出身の大西瞳さんが、女
子走幅跳と女子100mに出場して好成
績を収めました。どんな状況でも楽し
むことを忘れずに挑戦し続ける大西
さん。そのひたむきさの源に迫ると
ともに、新たな夢に懸ける思いにつ
いてお聞きしました。

特
集



すぎなみピト

大
西
瞳



Contents — 主な記事 —

6 | 世界禁煙デー、世界禁煙週間 8 | 夏季保養施設の申し込み 9 | 杉並区次世代育成基金 10 | 6月は子ども読書月間です 16 | 区議会の傍聴にお越しください

〒166-8570 杉並区阿佐谷南1-15-1 | ☎ 3312-2111(代表) FAX 3312-9911(広報課直通) | 🌐 区ホームページ: <http://www.city.suginami.tokyo.jp/> | 📄 発行: 杉並区 | 📝 編集: 広報課

広報すぎなみは月2回(1・15日)発行。新聞折り込みのほか、区の施設・駅・コンビニエンスストアなどの広報スタンドに設置しています。

義足で走る先輩の姿が素直に「かっこいいな」と思った。だから今の自分がいる。



↑
すぎなみビト
×
interview
大西 瞳

プロフィール：大西瞳（おおにし・ひとみ）。アスリート。昭和51年生まれ。東京都立杉並高等学校卒業。中学・高校では陸上部に所属し、中距離競技に取り組む。23歳のときに心筋炎を患い、治療中に壊死した右足を切断。その後、下肢切断者の陸上チーム「ヘルスエンジェルス」に加入し、再び陸上競技を始める。リオ2016パラリンピックでは、T42クラス（片大腿切断など）の女子走幅跳で自己新記録を更新して6位入賞。女子100mでも8位入賞を果たした。その功績が認められ、同年、杉並区スポーツ栄誉章を受賞。現在、杉並区方南在住。都内の区役所に勤務するほか、パラエティー番組の進行役、義足モデル、すぎなみスポーツアカデミー講師など、多岐な顔を持つ。

一初出場のリオ2016パラリンピックは、どんな大会でしたか。
プレッシャーはありました。せっかくのパラリンピックなので、自己ベストを出してメダルを取りたいじゃないですか。走り幅跳びでは自己ベストと銅メダル、100mでは自己ベストを狙っていたんですが、「本当に結果を出せるのだろうか」と考えてしまって、すごくプレッシャーを感じていました。そのせいでしょうかは分かりませんが、本番直前の合宿でスランプに陥って、とても自己ベストを出せる状態ではなくなってしまいました。でも私、プレッシャーがかかって、かかって、かかったときに結果が出るんです。本番にめちゃくちゃ強いんですよ。試合当日に会場入りすると、スタンドを埋め尽くしたお客さんがバーツと目に飛び込んできて……。その瞬間、スイッチが入りました。幅跳びでは本当にいい状態で6回とも跳ぶことができ、自己ベストも更新できました。100mではスタートで失敗して自己ベストを更新できませんでしたが、楽しんで走り切ることができました。ただ、もう少しいい記録を出せたのかなと。ロンドン2012パラリンピックに行けなかったときも悔しかったんですけど、リオでは「行けても悔しいんだな」って思いましたね。



リオでは、満員のスタンドを見た瞬間にプレッシャーが吹き飛び、スイッチが入りました。

リオ2016大会はとにかく盛り上がった大会でした。パラスポーツの大会は、世界選手権クラスの大会でもお客さんがあまり入らないんです。なので、今大会の盛況ぶりには本当にびっくりしました。サッカー王国ブラジルだからでしょうか、リオの人たちは「スポーツを楽しむプロ」と言いたくなるくらい盛り上げ上手で、子どもたちも一緒に踊り出してそんな雰囲気最高でした。あと、リオ大会は初めてパラリンピックが日本の地上波で生放送された大会で、日本が初めてパラリンピックで盛り上がった大会でもあったんですよ。そういう意味で、今後に期待が膨らみましたね。

「義足ってかっこいいかも」と感じてもらえたら。

一義足を見せるのはなぜですか。
足を切断した当時の私は義足が受け入れられず「健常者と同じようにきれいに歩きたい」と考えてばかりいました。そんなとき出会ったのが、



リオ2016パラリンピック陸上競技 女子走幅跳 T42 決勝

義肢装具士の臼井二美男さんです。「走れるようになれば、きれいに歩けるようになるから」と勧められ、臼井さんが主宰する下肢切断者中心の陸上競技チーム「ヘルスエンジェルス」の練習を見学しに行きました。そこで先輩たちが走っている姿を見たら、素直に「かっこいいな」と思えて。そのときから自分が義足であることを受け入れられるようになって、義足を見られることにも抵抗がなくなりました。むしろ、「このかっこいい義足を見せびらかしたい」と思うようになったんです。

私が義足を着けなければならなくなったときは、パソコンやインターネットが普及していなかったので、義足の詳しい情報を探すこともできず、義足のことを知らないが故に不安でした。だから、足を切断したばかりの人や、切断しなければならなくなってしまった人に、義足は実用的だということ、普通に歩けること、かっこいいことなど、義足のことをもっとよく知ってもらえたらと思っています。

障害者をテーマにしたバラエティー番組の進行役を務めたり、義足モデルとして写真集『切断ヴィーナス』やファッションショーに参加したりしているのも、義足をかっこいいと思ってもらえる場所を提供していただいているおかげです。「義足って、かっこいいかも」とみんなが感じられるようになれば、義足の人が生きやすくなるんじゃないかと思っています。



写真家・越智貴雄氏の写真集『切断ヴィーナス』（白泉社）の1枚

一プライベートでは何をしていますか。

プライベートの時間が取れないことが今一番の悩みです。テレビの仕事もあり、この4年間、完全なオフはほとんどありませんでした。

仕事は週末が休みですが、せっかく日中にトレーニングできる機会なの

で練習日になっています。現在、方南町に住んでいるので、休日は自宅にほど近い和田堀公園の済美山運動場で練習することがよくあります。整備されたばかりの新しいトラックが気持ちいいですよ。

杉並高校在学中に引っ越してきて以来、ずっと方南町住まいです。近くに大型スーパーがあって、生活に必要なものは何でもそろいますし、ファミレス、コンビニ、昔ながらの商店街まで、コンパクトなエリアに買い物の環境が充実しているのが気に入っています。しかも、新宿、渋谷、中野などのターミナル駅に電車がバス1本で行けて、めちゃくちゃ便利です。実家を出て一人暮らしを始めたときも、交差点を挟んで実家の向かいのマンションを借りたほど。それくらい方南町が好きで、離れられないんです。

今は一つ一つできることをやっていたらいい。

一東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が3年後に迫っていますね。

リオ2016パラリンピックは思い描いていた通り最高の舞台でした。そんな舞台にもう一度立ちたいという気持ちは、やはりあります。でも、リオの出場権を得るまでも大変だったのに、次は4年後じゃないですか。若手が実力をつけていて、みんな次々と自己ベストを出しています。しかもパラアスリートのプロ化が進んで、全体のレベルが上がっています。なんとかしなければと少し焦っています。これまでのように、仕事とアスリートを両立させながら記録を出して代表の座につくのは簡単ではないでしょうね。正直、自分の今の環境を変えなくては無理。厳しいと思っています。でも選考はまだ先ですから、今は一つ一つできることをやっていたらいいと考えてようしています。

2020年には東京が別世界に変わるかもしれない。

私がこれまでに体験したオリンピック・パラリンピック大会は、リオに限らず開催地に太陽の光が降り注いで、そこだけ光り輝いているような感覚でした。

リオは治安が悪くて街歩きを楽しめませんでしたが、東京は安全なので、世界中の人が街にあふれて別世界のように感じるかもしれませんね。日本は食事がおいしいし、最高のおもてなしができると思います。世界各国の選手が太ってくると、私たちが有利になってうれしいんですけどね（笑）。



撮影協力：新豊洲Brilliaランニングスタジオ

大西さんに聞いた **パラスポーツ(障害者スポーツ)の楽しみ方**

陸上競技以外にもさまざまな種目があるパラスポーツ。もっと楽しむためのポイントを大西さんが教えてくれました。

Point 1 コミュニケーションの大切さが分かる...

Point 2 体験することでより身近なスポーツに

年々盛り上がってきています！最近では、メディアに取り上げられたり各地でイベントが行われる機会が増えたように思います。より多くの人に目を向けてもらいたいです。

ルールを理解して観戦のポイントをつかもう

障害の種類や度合いでクラス分けされ、行われるパラスポーツ。ルールはとっても簡単。ほんの少しの予習で試合の面白さが分かるようになります。

ルールブック

体験イベントなどでパラスポーツのすごさを体感してみてください。観戦が100倍楽しくなりますよ。

event. **東京2020オリンピック・パラリンピック フラッグツアーに大西さんが参加します！**

都内62区市町村を巡回しているオリンピックフラッグ・パラリンピックフラッグの到着を歓迎するセレモニーを開催します。ぜひお越しください。

●フラッグ歓迎セレモニー

5月20日(土)午前11時～11時30分 柏の宮公園(浜田山2-5-1。天候不良時は同公園管理事務所) フラッグ引継式、フラッグツアーアンバサダー・トークショー、「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」(使用済み小型家電15品目の回収)、東京2020公式オリジナルグッズ販売など 出演=フラッグツアーアンバサ

東京2020オリンピック・パラリンピック フラッグツアー in 杉並区

ダーク・伊藤華英(北京2008オリンピック100m背泳ぎ8位、200m背泳ぎ12位、ロンドン2012オリンピック400mフリーリレー7位、800mフリーリレー8位) 主催=東京都/東京2020組織委員会/JOC/JPC

——問い合わせは、文化・交流課オリンピック・パラリンピック連携推進担当へ。